

最貧国の子どもにもワクチンを

世界では現在、約1900万人の子どもが感染症予防のワクチンを接種されず、毎年約150万人がロタウイルスや肺炎球菌、百日ぜきなど「ワクチンで予防できる疾患」で命を落としている。最貧国で子どもへのワクチン接種を推進する国際組織「Gaviワクチンアライアンス」(本部・ジュネーブ) 上級マネジャーの北島千佳さん(51)＝菊陽町出身＝が5月末、熊本市中央区の熊本大医学部で講演。「貧しい国の子どもを守る活動を知ってほしい」と呼び掛けた。

Gaviは2000年の世界経済フォーラム(ダボス会議)で発足。日本や欧米が出資し、世界保健機関(WHO)や世界銀行のほかNGOや製薬会社などが参加している。

費用対効果

支援対象は国民所得が最も低い国々で、現在アフリカ、アジアなど73カ国に上る。各国にシフトリア、百日ぜきなどの5種混合ワクチンや髄膜炎、麻疹(はしか)など12種類のワクチンを供給。16年までに接種した子どもは6億4千万人で、Gaviによると、900万人の子どもの命

接種推進組織「Gavi」北島 千佳さん(菊陽町出身)

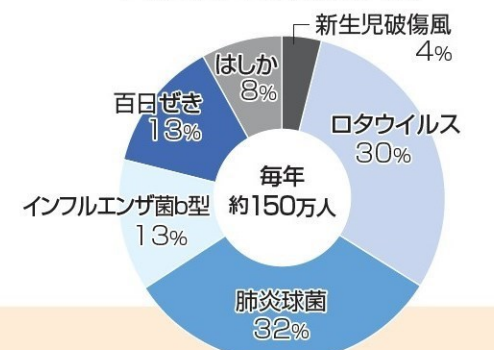
が救われたという。北島さんはこの意義を「費用対効果」の観点で説明。「ワクチン接種で子どもが健康に育てば、その国の社会基盤も次第に充実する。1ドルの投資効果で比べると、公共事業が3倍になるのに対し、ワクチンは18倍の効果がある」と話した。北島さんの主な仕事は、日本と韓国での資金調達に加え、支援を受ける各国のワクチン需要をまとめて製薬会社と交渉し、ワクチンを低価格で供給すること。ワクチンが必要な子どもへの接種費用はアメリカで1人当たり950ドル(10万円超)だが、Gaviはその4



熊本大の「HIGOプログラムセミナー」で話すGaviワクチンアライアンス上級マネジャーの北島千佳さん＝熊本市

熊本市で講演 「命救い 社会基盤充実」

ワクチンで予防できる疾患による世界の子どもの死亡数



※Gavi2015年報告書から

に満たない金額で調達しているという。

官民が連携

Gaviはワクチン資金を民間の金融市場からも調達。日本でも以前「ワクチン債」と呼ばれる債券が一般投資家向けに売り出されたこともある。「官民が連携し、さまざまな形で資金を集めて子

どもたちの命を助けていることをぜひ理解してほしい」と北島さんは強調した。

北島さんの講演は医学、薬学の専門知識を持ち、世界で活躍するリーダー育成を目指す「HIGO(ヒゴ)プログラム」の一環で、修士・博士課程在籍の大学院生らが聞いた。(伴哲司)



アフリカのコンゴで、ポリオ不活化ワクチンの接種を受ける子ども (Gavi/2015/Phil Moore)